

令和6年度 光市青少年問題協議会会議 結果報告書

- 1 会議名称
令和6年度光市青少年問題協議会
- 2 開催日時
令和7年2月6日（木）18時～19時30分
- 3 開催場所
光市教育委員会1階ホール
- 4 出席者
光市青少年問題協議会委員19名（1名欠席）
- 5 公開・一部非公開の別
公開

6 議会の議事録（要旨）

（1）会長あいさつ

委員の皆様におかれましては、平素から、本市の子どもたちの健全育成のために格別のご尽力をいただいておりますことに対しまして、心から感謝申し上げます。

本協議会は、年に一回こうして委員の皆様にお集まりいただき、本市の子どもたちの現状や、青少年が抱えている課題等をご理解いただくとともに、各地域での活動について皆様と情報共有し、意見交換ができる貴重な機会となっております。ご承知のように、昨年10月、本市においても「闇バイト」による強盗予備事件が発生し全国的に報道されました。他人ごとではなく自分ごととして捉え、決して安心しすぎることなく、緊張感をもって青少年を取り巻く環境を注視し対応していく必要があると考えています。

さて、「前向きな心」をテーマとして3年目を迎えた、昨年度の本協議会報告書の中にある印象深いキーワードをいくつかあげてみますと、「つながる・思いやり・感謝」「励ましに、成果を出して、恩返し」「小学生があんな中学生になりたいと願う憧れの気持ち」そして「心のエンジンを動かす」といった表現です。とりわけ、最後の「心のエンジンを動かす」には燃料が必要ですが、それは「保護者や地域の方々からの助言や支援」「友だちの手助けや励まし」そして「友だちや家族、地域の方々との絆」などではないかと考えます。本日の実践発表や、各校から提出されている資料の中にも、その答えとなるものが紹介されるのではないかと期待しています。

本市においては、早い段階からコミュニティ・スクールを核として、連携と協働を基盤とした、地域とともにある学校づくりが推進されていますが、本日は、その中から光井学園の取組を紹介していただきます。コロナ禍を乗り越え、5年目を迎えた「小中一貫教育」の実践の中で、子どもたちの生き生きした活動や地域の方々のご支援の様子をお話しいただけるのではないかと考えています。

本日の協議会を通じて、子どもたちの「前向きな心」を育み伸ばす、地域ぐるみの活動や取組がさらに発展するとともに、子どもたちの見守りや支援の輪が広がりますことを期待しております。

（2）委員委嘱（19名に委嘱状交付、今年度新規委員は8名）

（3）所管説明

ア 光警察署

- ・管内の犯罪発生、少年非行、子どもへの声かけ事案の発生状況等
- ・光市の児童生徒の挨拶の良さとは他者への思いやりを実感

イ 光市教育委員会

- ・市内児童生徒の問題行動・不登校等
- ・子どもたちは全般的に大変落ち着いているが、不登校については引き続き課題のひとつ

(質問) 年度の数値は、前年度からの継続分も入っているのか。

(回答) 継続分を含んではおらず、その年度に新たに認知された件数となっている。

(質問) 「いじめ」と「不登校」の定義を教えてください。

(回答) いじめは、分かりやすく言うと「一定の人間関係がある中で、被害を受けた児童生徒が心身の苦痛を感じた場合、それはいじめとして認知する」といった認識でカウントしている。また、不登校は、年間30日以上欠席している児童生徒の中で、「病気」や「経済的理由」等以外で学校に通えない児童生徒をいう。

(質問) いじめには、暴力も含まれているのか。

(回答) 含まれている。

(質問) いじめの認知は、子どもからか、保護者からか。

(回答) どちらからもあるが、子どもからの方が多い。光市では、週1回「生活アンケート調査」を実施している。

(質問) 「不登校」というと悪い印象に聞こえるが、生徒と話す中で、自分にとっては「自主休校」という子どももいるが。

(回答) 不登校は「問題行動」ではなく、様々な人間関係等で悩む子どもにとっては「休養」と捉えることもできる。

(4) これまでの経緯(事務局)

本協議会では、コロナ禍を挟み、「前向きな心」を新しいテーマにして4年目を迎えており、本市の青少年の現状や課題について協議を進めてきています。まずは、参考資料の②をご覧ください。

昨年の協議会では、「室積学園と地域が連携した取組」と題して、子どもたちの前向きな心を共有しながら、「協育ネット」や小中一貫教育の「むろづみ学園」のつながりを生かして、学校・家庭・地域が知恵を出し合って進めている活動の事例を発表していただきました。資料②は、その際の事例発表と委員の皆様からのご意見等をまとめた報告書ですので、お時間のある時に、ご一読いただければと思います。

そして、これまでの取組の成果を生かし、各学園でさらに進めた「今年度の取組」を簡単にまとめたものが、資料①ですので、こちらをご覧ください。学園ごとに、子どもたちの「自主性」を育み伸ばすために、小中合同で、また学校・家庭・地域が一体となって進めている取組を、子どもたちが「前向きな心」を発揮している活動例としてキーワードとともに紹介しています。

ご承知のとおり、本市では全国に先駆けて、コミュニティ・スクールの取組を段階的に進め、平成26年度にすべての小中学校をコミスクに指定して以来、令和2年度からは、それぞれの中学校区をひとつの“学園”とし「次世代型コミュニティ・スクール」として新たな一歩を踏み出しています。この資料にある「地域協育ネット」とは、そうした学園の一体的なネットワークを示しています。

約3年間にわたるコロナ禍の影響を受け、人とふれあうこと、関わることに制限された生活を送ってきた子どもたちにとって、一昨年5月から徐々に日常の生活が戻り、改めて、表情豊かに、子どもたち同士や地域のみなさんとのふれあいや関わり合うことの大切さを実感できる取組がなされています。

このあとの事例発表では、光井学園の光井中学校から“地域とともに伸びようとする光井っ子”と題して、子どもたちが「前向きな心」や、自ら考えて行動する「自主性」を発揮しながら活動している事例について、写真や映像を交えて紹介していただきます。

(5) 事例発表(光井学園)

～地域と『ともに伸びよう』とする光井っ子～

* 以下の点について、活動の様子を写真や動画で視聴し、光井中学校の発表者からの説明があった。

- ① 光井学園について
- ② 学校運営協議会

年4回のうち、3回 小中合同で実施

8月、2月に小中学生が参加

③ 小中合同登校・引き渡し訓練

【合同登校】年2回（6月、11月）に実施 小中学生が同じ登校班で登校
中学生は、危険箇所の確認

【引き渡し訓練】小中同日開催

④ 光梅タイム

地域の方が講師となり日本文化に触れることを目的に実施

【開設講座】

空手、詩吟、書道、邦楽、水墨画、切り絵、短歌、押し花、手話、生け花
の10講座

⑤ 体育祭・文化

【体育祭】 全校競技 【玉入れ】に小学生、地域の方も参加

【文化祭】 光井小体育館で開催（中学校体育館が工事中）

合唱コンクールリハーサルを小学生が見学

当日は、地域の方も観覧

⑥ 光井まつり・門松づくり

【光井まつり】 まつりの準備片付けに参加 企画運営にも参加
終了後は、ボランティアによるゴミ拾いを実施

【門松づくり】 生徒会役員と地域の方と一緒に門松づくり

⑦ 生徒会【チャレンジ目標】

和笑 ～ どんな時も笑顔を忘れずに楽しく過ごそう

挑戦 ～ 仲間と気持ちを1つに挑み続けよう

参画 ～ 地域とともに光井中を輝かせよう

(6) 意見交換

(議長)

今から、意見交換に入ります。子どもたちの「前向きな心」を共有しながら、「自主性」を育み伸ばすために、私たちにできることは何か。思いを共有するためにできることはないか。また、所属されている団体や機関で、「前向きな心」を大切に創意工夫されて取組がありましたら、お話を聞かせていただけたらと思います。光井学園のご発表や各学園の取組の中にもたくさん共有すべき取組があると思います。できるだけ多くの委員の皆様の思いやご意見をいただきたいと思います。

(委員)

学校運営協議会に児童生徒が参加するという機会が増えているが、その中で出てきた子どもたちの意見をどう取り上げ、実現していくかが重要だと考えます。私が関係する中学校では、生徒のアイディアで「花の日」を設定し、生徒と地域の大人で朝の時間に花植え等の活動をしています。また、小中の保護者同士のつながりをめざした「保護者サミット」も実施し、成果を上げています。

(委員)

光井学園のすばらしい取組を聞かせていただきました。特に、生徒たちが、参加から「参画」

へと大きく変わろうとしていることに感銘を受けました。ただ、一番変わらなければならないのは、私たち大人かと感じています。

(委員)

光梅タイムの取組はすばらしいと思いました。今、部活動の地域移行に向けて準備が進んでいますが、地域の方々を巻き込んだ光井中学校の取組は大変参考なるのではないかと感じました。この光梅タイムの取組が地域クラブ活動に生かせないか、また、他地域で取り組んでいることの情報共有ができないかと考えています。

(委員)

子どもが保育園、小学校、中学校と3人いるのですが、成長を感じる時というのは、何らかの「役割」を与えてもらい、それを周りから「認められる」という経験をした時ではなかと実感しています。変わらなければならないのは大人という意見もありましたが、PTAとしても子どもたちを前に出すことを意識しながら、サポートしていけたらと考えています。

(委員)

学校では、「学びに向かう態度」を重視しており、これは、まさに「前向きな心」ともいえるかと思います。「参画」や「憧れ」などを大切にしながら、そうした気持ちを感じ、成長できる場面をしっかりとつくっていくことが重要だと考えています。光市のコミスクの良さは、「本気の大人」に出会えることではないかと感じています。

(委員)

大和地域は来年度から4つの小学校が統合され大和小が誕生することとなるのですが、どの小学校も自校のよい伝統を残していこうと準備しています。本校は、掃除の際の雑巾の「3拍子拭き」が伝統で、地域の方々と協力しながら、いい形で評価し残していこうと考えています。

(委員)

光井学園のすばらしい取組を聞かせていただきましたが、ひとつ質問です。これまで年間を通じて取組をされる中で、一番苦労したところがあれば教えていただきたいのですが。

<光井中>

苦労したところはほとんどないですが、小中合同登校では、中学生の中に日頃通らない道を通ってくることになる生徒がおり、その調整は大変でした。また、小中で発達段階が異なるので、お互いの教育目標をしっかりと尊重しながら進めていくという点は難しいところもありますが、小中合同研修の中で共通理解を深めております。

(委員)

情報提供ですが、来年度から新たに「幼稚園」が小学校の学校運営協議会に参加するところがありますので、紹介させていただきます。

(委員)

光井の合同登校での課題が紹介されたが、中学校になって通学路を変更する必要はないのではないかと感じました。

また、別件ですが、中学校では免許外の先生が授業を担当することがあるので、専門性がある教員をいくつかの学校で指導させるなどの対応ができるとよいかと思います。

(委員)

今の子どもたちは、日頃から地域の方々に接する機会が多く、学びが多いと感じます。ただ、地域の人材はまだ埋もれているようにも思いますので、もっと多くの大人が関わってけるとよいなと感じています。

(委員)

子どもが「自分の良さに気づき、自分に自信をもつ」ということは非常に大切だと感じていますし、それは何よりも「体験」の中から生まれると思っています。ただ最近、「無理をさせない」ことが強調され過ぎて、困難なことや辛いことを乗り越える「克服する力」がきちんと育まれているかという点が気になるところです。

(委員)

光梅タイムの中で、日本文化に触れる機会があるというのは、本当にすばらしく、同時にうらやましいと思いました。実は、私の所属する団体の業務で乳幼児と関わることがありますが、ブックスタートに取り組んでいます。読み聞かせも含め、早い段階から本に触れることが、心を育てる、本を話題に周りとの人間関係を広げるなど、子どもの発達にいい影響を与えると実感しています。

(委員)

光市では子ども会として活動しているところが、1地区のみとなってしまっているのですが、浅江地区では虹ヶ浜を活用してのビーチ大会など企画し、異年齢集団で遊びをテーマに様々な体験活動をさせています。

(委員)

光井学園の児童性の「自主性」を伸ばす様々な取組を見せていただき、本当に勉強になりました。また、いろいろな地域で、私の所属する団体のメンバーが活躍しており、私も負けてはいられないなと感じました。

(委員)

毎朝のウォーキングの際に、子どもたちや地域の方がよく挨拶をしてくださいます。また朝掃除をされている方にお会いすることもあり、光市はとても綺麗だなと感じております。やはり、美しい環境の中で育つ子どもたちは、今日も話題になったように、心が育っておりすばらしいと思います。今日は、そのことが「気づき」から「確信」に変わりました。

(議長)

今回は、光井学園で取り組まれている、学校、家庭、地域が子どもたちの「前向きな心」を共有し、地域ぐるみで学びや育ちを支援する中で、将来を担う子どもたちが自主性を発揮しながら、課題解決力を身につけている事例をもとに協議を深めることができました。事例発表していただきました、中山先生どうもありがとうございました。私たちも、子どもたちの「前向きな心」が失われることがないように、これからもそれぞれが所属する団体や機関での活動の場において、適切な判断のもとでしっかりと子どもたちの「前向きな心」を育てていきたいものだと思います。

(7) 今後に向けて (事務局)

今回の会議の内容は、担当の方でまとめ、後日、市内の各学園の学校やコミュニティセンター等にもお伝えします。「前向きな心」の実践例を共有し、活動の参考にしていただこうと考えています。また、来年度の協議会においても、残り2学園ありますので引き続き「前向きな心」をテーマに、これからの一年間でさらに進んだ、そして工夫された、他学園の取組等の発表や意見交換ができればと思っております。

(8) 会長あいさつ

今日は熱心なご協議ありがとうございました。発表の中に、「ともに伸びよう」ということばがあり、まさに光井学園が生徒会を中心に「地域とともに」をキーワードに様々な実践をされておられることなどを紹介いただき、感銘を受けました。

この「地域」ということばは、単なる場所、エリアを示すのではなく、「地域の人」を指し、この地域の皆様が子どもたちにとっての「憧れの存在」になっておられるのだなと感じました。まさに「本気の大人」に出会っていることのすばらしさを実感しました。

今後とも、私も含め周りの大人が、子どもたちから「憧れられる」存在であり続けることが大切ですし、自己研鑽に励まなければならないなと思っております。

7 問い合わせ

光市教育委員会青少年センター（0833-72-2245）